

関西経済レポート(2月号)

- 12月の鉱工業生産指数は前月比+0.7%と2カ月ぶりの上昇。結果、10-12月平均は前期比+0.2%と2期ぶりのプラス。
- 1月の輸出額は前年比+19.9%と23カ月連続のプラス。輸入額は同-10.9%と2カ月ぶりの減少。結果、貿易収支は-756億円と2カ月ぶりの赤字だが、赤字幅は前年同月比-83.6%縮小した。
- 1月の景気ウォッチャー現状判断DIIは2カ月連続の小幅改善。訪日外国人の消費の拡大が寄与。先行き判断DIIは原油安や賃上げ期待もあり2カ月連続の大幅改善。消費者心理に下げ止まりの動きがみられる。
- 1月の大型小売店販売は7カ月連続の前年比プラスで小幅改善を続けているものの、百貨店では前年増税前の駆け込み需要の影響がみられ、減少に転じた。
- 1月の新設住宅着工戸数は5カ月連続の大幅減。持家と貸家、分譲が全て前年同月から減少した。
- 1月の有効求人倍率は横ばい。2カ月続いた改善傾向が一服したが、インバウンド需要への対応から卸売・小売業や宿泊業で新規求人が増加。失業率は上昇したが非労働力人口減少と就業者数増加がみられる。
- 1月の公共工事請負金額は前年比-25.1%と3カ月連続のマイナス。12月の建設工事は前年比+2.4%と32カ月連続のプラスも、伸びは9カ月連続で1桁。
- 1月の中国の製造業購買担当者景況指数は、4カ月連続で前月から悪化。2012年9月以来28カ月ぶりに50を下回った。

※「近畿」「関西」は、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山の2府4県。

鉱工業生産、大型小売店販売額のみ、福井を含む2府5県。

※本レポートは、一般財団法人アジア太平洋研究所

“Kansai Economic Insight Monthly”と連携していま

+

～ 関西経済のトレンド ～

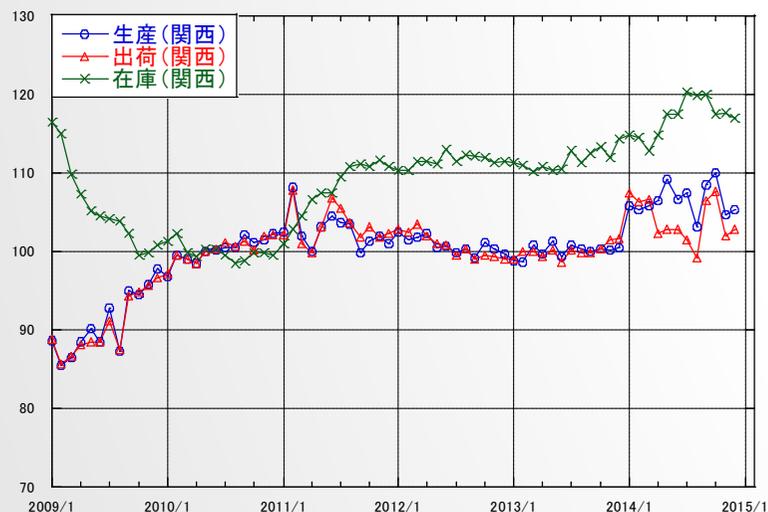
	2014年											2015年
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
生産	➡	⬇	⬆	⬆	⬇	⬆	⬇	⬆	⬆	⬇	⬆	⬇
貿易	⬆	⬇	⬆	➡	⬇	⬆	➡	➡	⬆	➡	⬆	⬆
センチメント	⬇	⬇	⬇	⬆	⬆	⬆	⬇	⬇	⬇	⬇	⬆	⬆
消費	⬆	⬆	⬇	➡	➡	➡	⬆	⬆	⬆	⬆	⬆	➡
住宅	⬇	➡	⬆	⬇	➡	⬇	⬆	⬇	⬇	⬇	⬇	⬇
雇用	➡	➡	➡	⬆	➡	➡	➡	➡	⬆	⬆	⬆	➡
公共工事	⬇	⬇	⬆	⬆	➡	➡	➡	⬇	⬆	⬇	⬇	⬇
中国	➡	➡	➡	➡	⬆	⬆	⬇	⬆	➡	⬇	⬇	⬇

～目次～

生産	1
輸出入	2
消費者センチメント	3
個人消費・住宅	4
雇用	5
公共投資	6
中国経済動向	7

～生産～

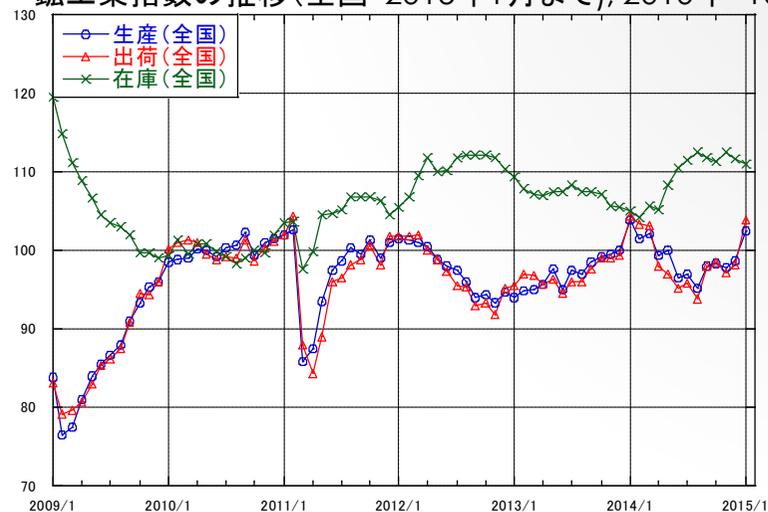
鉱工業指数の推移(近畿・2014年12月まで), 2010年=100



(出所) 近畿経済産業局「近畿経済の動向」

- 関西における12月の鉱工業指数(確報値：季節調整済)は、生産は105.4で前月比+0.7%、出荷は102.9で同+0.8%といずれも2カ月ぶりの上昇。一方、在庫は117.1で同-0.5%と、2カ月ぶりの下落となった。
- 業種別にみると、電子部品・デバイス(同+4.1%)、化学(除. 医薬品)(同+4.8%)、輸送機械(除. 航空機・鋼船・鉄道車両)(同+4.0%)等が増産となった。一方、食料品・たばこ(同-9.4%)、はん用・生産用・業務用機械(同-2.2%)、電気機械(同-2.6%)等は減産となった。
- 生産は前月から増産となり、結果、10-12月期は前期比+0.2%と2期ぶりに小幅プラスとなった。

鉱工業指数の推移(全国・2015年1月まで), 2010年=100

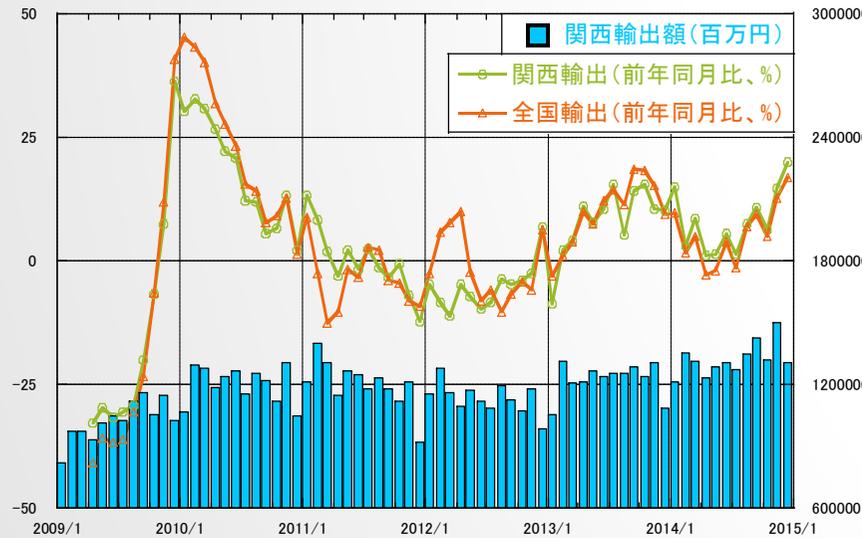


(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

- 全国における1月の鉱工業生産指数(速報値、季節調整済)は102.6となり前月比+4.0%、出荷は103.9で同+5.8%といずれも2カ月連続の上昇。在庫は111.0で同-0.6%と2カ月連続の下落となった。
- 業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械(同+9.4%)、輸送機械(同+4.5%)、電気機械(同+5.6%)等を中心に増産となった。一方、パルプ・紙・紙加工品(同-0.4%)、石油・石炭製品(同-0.4%)は減産となった。
- 製造工業生産予測調査では、2月は前月比+0.2%と小幅増産の予定であるが、3月は同-3.2%と減産の見込みである。

～輸出入～

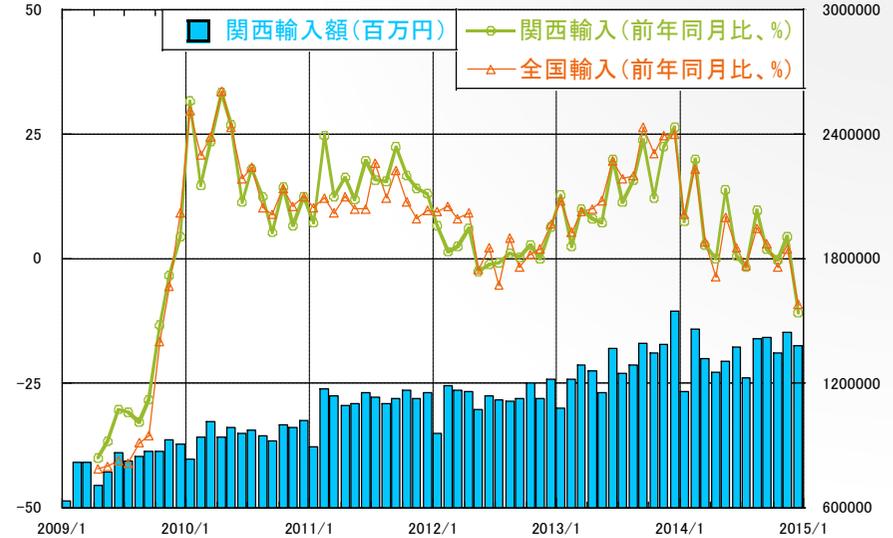
輸出動向（右：輸出額、左：前年同月比）(2015年1月まで)



(出所)大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料:近畿圏」

- 関西1月の輸出額(速報値)は1兆3,047億円と、単月過去最高額を記録した。前年同月比+19.9%と23カ月連続の増加。
- 財別に見れば、輸出増加に主に貢献したのは、半導体等電子部品、科学光学機器であり、いずれも単月過去最高額を記録した。一方、鉱物性燃料、有機化合物が減少となった。
- 全国1月の輸出額(確報値)は6兆1,434億円となり、前年同月比+17.0%と5カ月連続の増加。財別に見れば、自動車、半導体等電子部品、船舶等の輸出が増加した。
- 関西、全国共に輸出は増勢が続いている。なお、税関長公示レートベースで見ると、前年同月比14.1%の円安であった。

輸入動向(右:輸入額、左:前年同月比)(2015年1月まで)

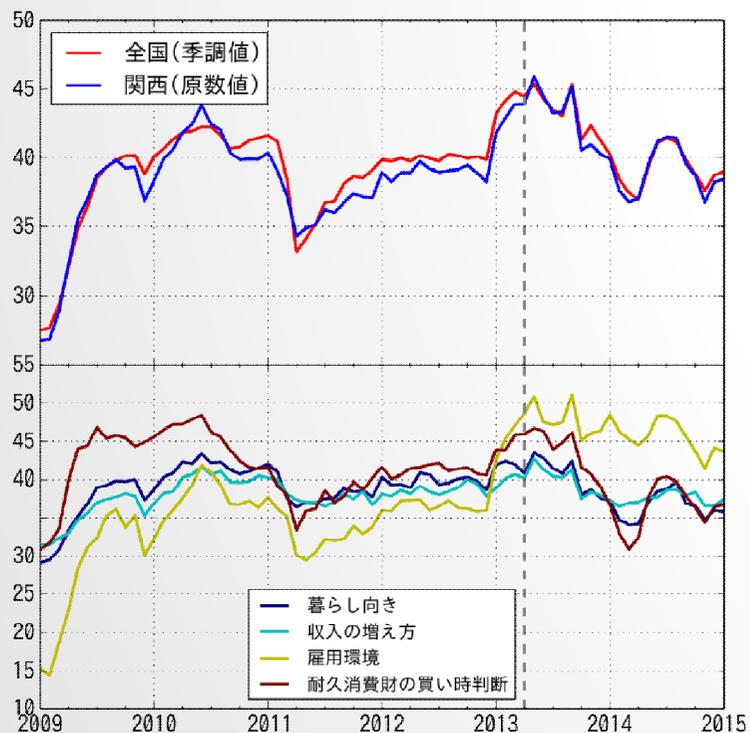


(出所)財務省「貿易統計」

- 関西1月の輸入額(速報値)は1兆3,803億円、伸びは前年同月比-10.9%と2カ月ぶりの減少。
- 財別に見れば、天然ガス及び製造ガス(単月過去最高額)、半導体等製造装置(単月過去最高額)等が増加した。一方、原油及び粗油、事務用機器の輸入は減少した。
- 全国1月の輸入額(速報値)は7兆3,225億円、前年同月比-9.0%と2カ月ぶりの減少。財別に見れば、原粗油、石油製品、液化天然ガス等の輸入が減少した。
- 結果、関西の貿易収支(速報値)は-756億円と2カ月ぶりの赤字となったが、赤字幅は前年同月比-83.6%縮小した。全国の貿易収支(速報値)は-1兆1,791億円と31カ月連続の赤字も、赤字幅は同-57.8%縮小した。このところ、貿易収支の赤字幅は大幅な縮小が続いている。

～消費者センチメント～

消費者態度指数(2015年1月まで)



(出所)内閣府「消費動向調査」

景気ウォッチャー調査(2015年1月まで)

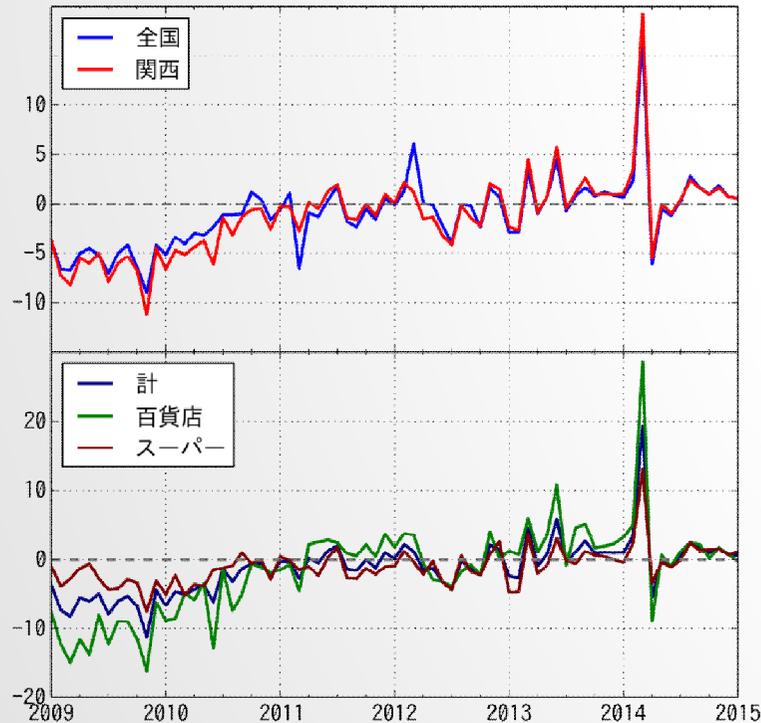


(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

- 関西の1月の消費者態度指数(原数値)は前月比+0.2ポイントの38.5と、2カ月連続の改善。
- 全国(季節調整値)でも同+0.3ポイントの39.1と2カ月連続で改善しており、消費者心理に下げ止まりの動きがみられる。
- 関西で同指数の構成項目をみると、「収入の増え方」は同+0.9ポイントと3カ月ぶりに改善し、「耐久消費財の買い時判断」は同+0.4ポイントと2カ月連続で改善。
- 一方、「暮らし向き」は同-0.2ポイント、「雇用環境」は同-0.5ポイントと、いずれも2カ月ぶりに悪化に転じている。
- 関西の1月の現状判断DIは前月比+0.2ポイント上昇し47.8となった。2カ月連続の改善。初売りが概ね好調だったほか、訪日外国人の消費の拡大がセンチメント改善に寄与したようである。
- 全国も同+0.4ポイントと2カ月連続で改善し45.6となった。
- 先行き判断DIは、関西では51.6と同+3.0ポイントの上昇。原油相場の低下による好影響や賃上げへの期待から、2カ月連続の改善となった。
- 全国は50.0となり、同+3.3ポイントの改善。2カ月連続で改善している。

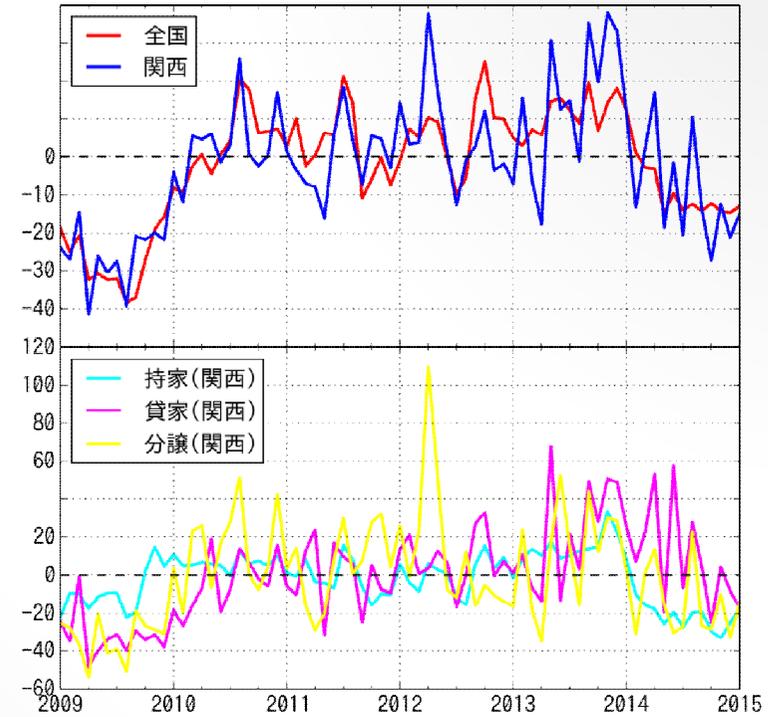
～個人消費・住宅～

大型小売店販売額(前年同月比:%、2015年1月まで)



(注)福井県を含む。
(出所)経済産業省「商業動態統計」

新設住宅着工(前年同月比:%、2015年1月まで)

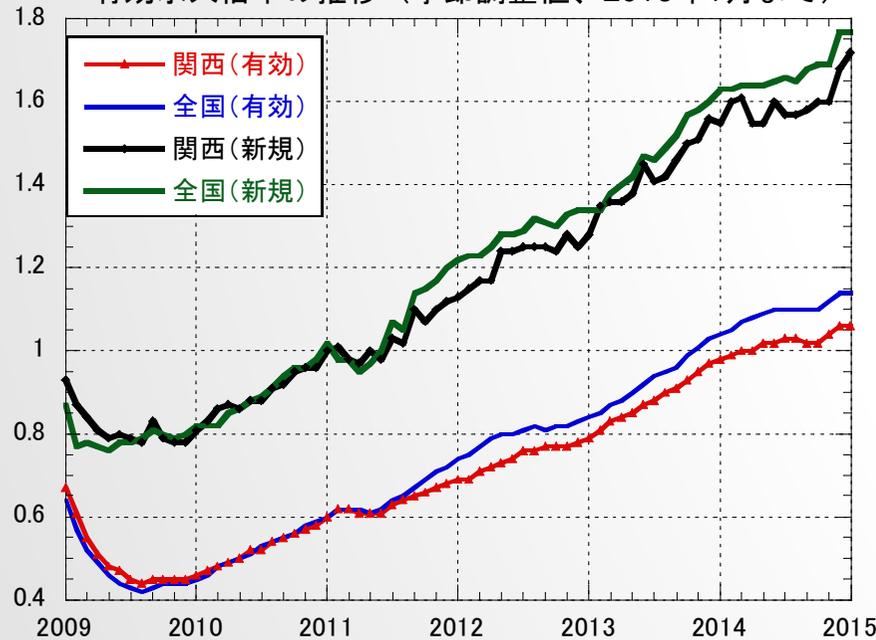


(出所)国土交通省「住宅着工統計」

- 関西の1月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は、前年同月比+0.6%と7カ月連続のプラスだが伸びは減速。
- 百貨店は同-0.3%と7カ月ぶりのマイナス。
- スーパーは同+1.2%と6カ月連続のプラス。
- 全国でも、1月の大型小売店販売額(全店ベース)は同+0.6%と7カ月連続のプラスとなっている。
- 関西、全国ともに消費は緩やかな改善を続けているものの、百貨店では昨年増税前の駆け込み需要の影響がみられ、減少に転じている。
- 関西の1月の新設住宅着工戸数は9,605戸。前年同月比-15.0%と2桁の大幅減が5カ月続いている。
- 全国でも同-13.0%と11カ月連続の減少。
- 関西の住宅着工を利用関係別にみると、持家は同-17.1%と12カ月連続で2桁の大幅減となっている。分譲も同-14.2%と2桁減が5カ月続いている。貸家も同-16.9%と2カ月連続で減少。
- なお、1月の関西マンション契約率は79.3%(季節調整値、APIR推計)となった。好不調の目安となる70%を40カ月連続(原数値は12カ月連続)で上回り、販売は好調を維持。なお季節指数は1月から変更されている。

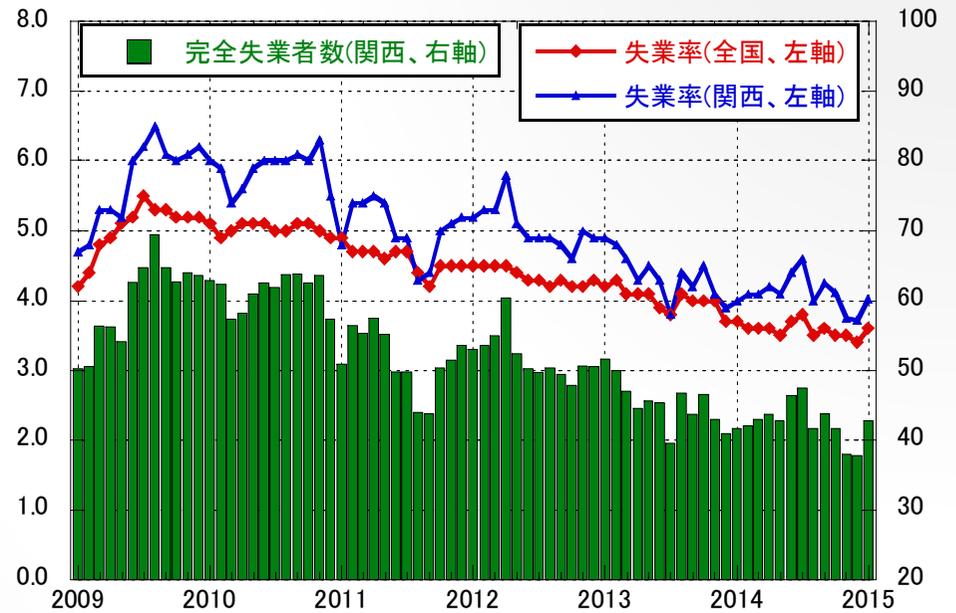
～雇用～

有効求人倍率の推移（季節調整値、2015年1月まで）



（出所）厚生労働省「一般職業紹介状況」

完全失業率の推移（季節調整値：%、万人、2015年1月まで）



（出所）総務省「労働力調査」

関西2府4県有効求人倍率(2015年1月)

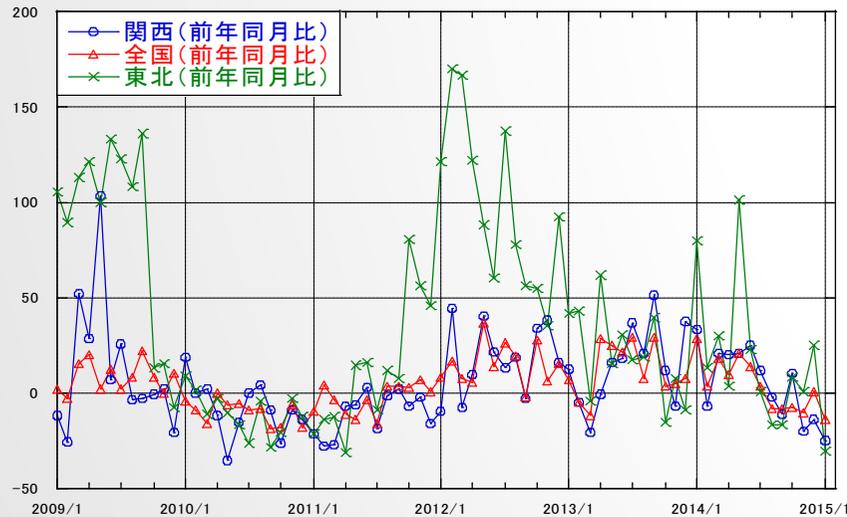
1月	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
受理地別	1.14	1.06	1.00	1.11	1.15	0.95	0.90	1.00
就業地別	1.15	1.06	1.17	1.14	1.02	1.05	1.03	1.09

- 1月の関西の有効求人倍率は、1.06倍と前月比横ばいとなり、2カ月続いた改善傾向が一服。全国も1.14倍と前月比横ばいとなったが高水準を維持。なお1月から季節指数が改訂。
- 関西の有効求人倍率を府県別にみると、受理地別・就業地別ともに奈良県で前月比+0.04ポイントと最も上昇が大きかった。それ以外の府県ではほぼ横ばいであった。
- 1月の関西の新規求人倍率は、1.72倍と前月比+0.04ポイント上昇し、2カ月連続の上昇となった。訪日外国人観光客増加によるインバウンド需要への対応から、卸売・小売業や宿泊業で新規求人が増加した。全国は1.77倍と前月比横ばい。雇用環境の改善は続いている。

- 1月の関西の完全失業率(季節調整値：APIR推計)は4.0%で前月(3.7%)から+0.3ポイント上昇し、3カ月ぶりの悪化となった。内訳をみると、非労働力人口の減少と就業者数増加がみられ、より良い条件を求めた職探しの動きがあると考えられる。
- 関西の完全失業者数(季節調整値：APIR推計)は42.7万人。前月(37.8万人)から+4.9万人と大幅に増加した。
- 全国の完全失業率(季節調整値)は3.6%となり、前月(3.4%)から+0.2ポイント上昇。自発的な離職(自己都合)が増加しており、労働市場への参入が進んだことによる。
- 全国の15～64歳の就業率(原数値ベース)をみると、72.5%と前月(73.1%)と比べて幾分低下した。性別では、女性の就業率は63.5%と前月(64.4%)と比べて下落したが5高水準が続いている。

～公共投資～

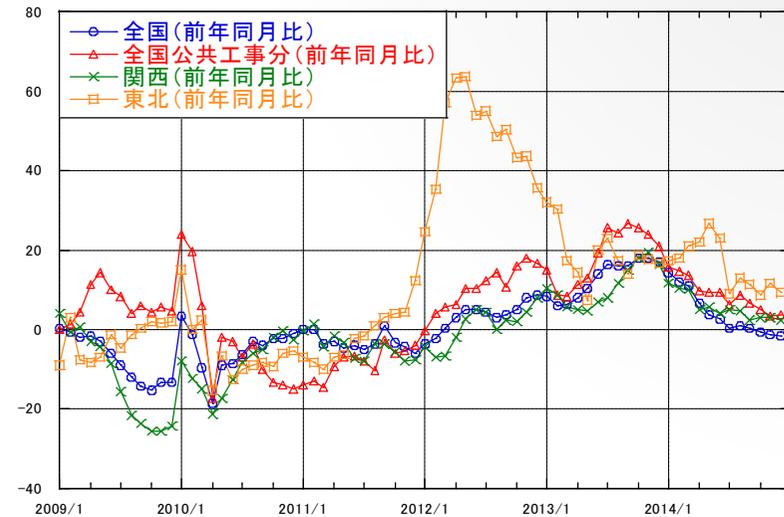
公共工事請負額(前年同月比:%、2015年1月まで)



(注)福井県を含む。
(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

- 2015年1月関西の公共工事請負金額は706億円の前年同月比-25.1%と3カ月連続の大幅マイナスとなり、減速幅は拡大している。
- 全国は6,708億円と同-13.7%と2カ月ぶりの減少。
- 東北は1,264億円と同-30.5%と、前月から一転、4カ月ぶりの大幅減少となった。
- 季節調整値(APIR推計)で見ると、関西、全国共に2カ月ぶりに前月から減少となった(関西：同-16.0%、全国：同-1.1%)。なお、季節指数は今月に改訂を行った。
- 公共工事受注は減速が続いている。

建設工事(前年同月比:%、2014年12月まで)

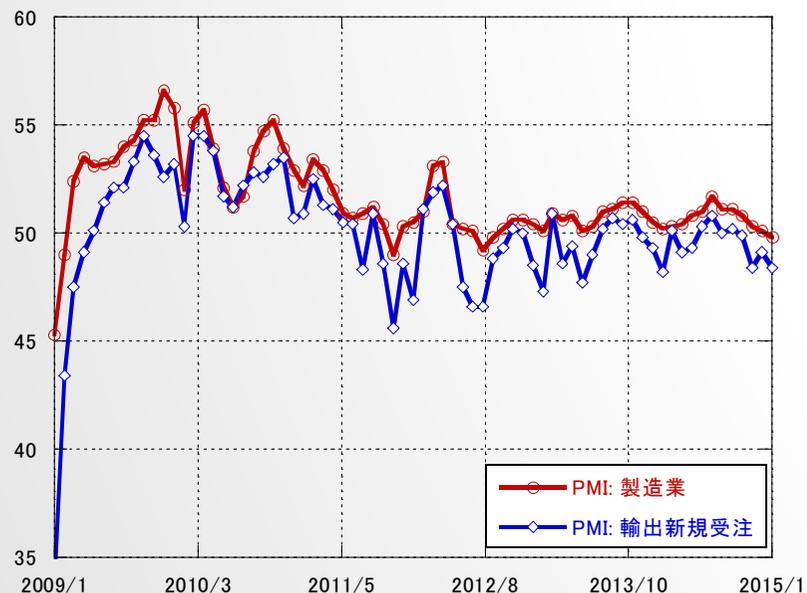


(出所)国土交通省「建設総合統計」

- 関西12月の建設工事は6,096億円、前年同月比+2.4%と32カ月連続の増加も伸びは9カ月連続で1桁となった。結果、10-12月期は前年同期比+2.9%と11期連続のプラスとなった。
- 東北は6,767億円、同+9.4%と41カ月連続の増加。
- 全国は4兆8,346億円となり同-1.7%と3カ月連続の減少。全国の公共工事は2兆3,443億円と同+3.7%と35カ月連続の増加も、伸びは9カ月連続で1桁にとどまった。
- 公共工事の受注の減少もあり、建設工事の伸びは減速が続くと予想される。

～中国経済動向～

製造業購買担当者景況指数 (2015年1月まで:%)



(出所) 中国国家统计局;CEICデータベース

- 1月の中国製造業購買担当者景況指数(PMI)は49.8と前月から-0.3ポイント低下し、4カ月連続の悪化。50を下回ったのは2012年9月以来28カ月ぶり。
- うち、生産指数は51.7と同-0.5ポイント低下し、4カ月連続の悪化。新規受注指数は50.2となり、同-0.2ポイント低下し、6カ月連続の悪化。輸出新規受注指数も同-0.7ポイント低下し、48.4となった。2カ月ぶりの悪化で、4カ月連続で50を下回っている。加えて、雇用指数は47.9となり、前月から-0.2ポイント低下し、3カ月連続のマイナス。2012年6月以来、32カ月連続で50を下回っている。
- すべての領域で景況指数は悪化している。

日本との貿易 (前年同月比; 円ベース) (2015年1月まで:%)



(出所) 中国税関;CEICデータベース(APIR計算)

- 1月の中国の輸出額(速報値、ドル・ベース)は前年同月比-3.3%減少し、10カ月ぶりのマイナス。輸入額は同-20.0%(速報値)となり、3カ月連続のマイナスとなった。
- うち日本への輸出額は同-20.6%となり、6カ月連続のマイナス。日本からの輸入額は同-13.9%となり、3カ月連続のマイナスとなった。
- 円ベースに換算すると、日本への輸出額は同-9.6%となり、11カ月ぶりのマイナス。日本からの輸入額は同-2.0%となり、5カ月ぶりのマイナスとなった。

※関西経済のトレンド 評価基準について

- ・ センチメント：内閣府『景気ウォッチャー調査』の近畿現状判断(方向性)DIが前月比で1ポイント以上の改善は上向き、1ポイント以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・ 生産：近畿経済産業局『近畿地域鉱工業生産動向』生産指数(季節調整値)が前月比+0.5%以上であれば上向き、同-0.5%未満であれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ 雇用：厚生労働省『一般職業紹介状況』有効求人倍率(季節調整値)が前月比で0.01ポイント以上の改善は上向き、変化がなければ横ばい、0.01ポイント以上の悪化は下向きとする。
- ・ 消費：近畿経済産業局『大型小売店販売状況』(全店ベース)が前年同月比で1%以上増加していれば上向き、同1%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ 住宅：国土交通省『住宅着工統計』新設住宅着工戸数が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ 公共工事：西日本建設業保証株式会社『公共工事前払金保証統計』公共工事請負金額が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ 貿易：大阪税関『貿易統計』の近畿圏貿易収支(入出超額)前年同月から500億円以上の改善は上向き、同500億円以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。